

第 7 章 提 言

第7章 提 言

7.1 計画対象外の分野の開発課題

マスタープラン策定にあたり、対象外とされた分野がある。それらの分野の開発課題は具体的な計画として取り上げられていないが、米流通改善・品質向上及び食糧安保において特に重要な事項について述べる。

(1) 流通インフラ整備

主要な国道整備については既に国際援助機関や他国ドナーによる整備分担が決定している。また、道路整備を担当する公共事業省は本調査の実施機関でないことから、道路整備はマスタープランの対象から除外した。しかし、劣悪な道路条件が流通の大きな障害であり、可能な限りの早急な道路整備が必要である。

(2) 農業生産の安定と生産性の向上

品質改善に大きく関わる優良種子の配布支援を除き、直接的に農業生産に関わる分野はマスタープランの対象から除外した。しかし、開発目標のひとつである「食糧の地域・価格格差是正による安定供給」を達成するために生産安定、不足地域の生産拡大は、欠かすことの出来ない事項であり、灌漑施設の整備・リハビリ、栽培技術の近代化等の農業開発計画における優先課題の早期実現が必要である。

(3) 貧困対策の重要性

社会経済開発において、貧困の削減は最優先の課題となっているが、市場経済化は、経済発展に貢献しているものの、大多数の貧困層を削減できていない。貧困層の多くは農民であり稲作に従事している。米の流通は、最終的に最も弱い立場にある貧困農民がしわ寄せを受けている。本開発計画は、食糧安全保障の強化を開発目標として掲げているが、究極の目標は食糧である米の生産をとおして、貧困農民を削減することであるといえる。その意味から、本開発計画において挙げられ貧困農民の支援に繋がる諸計画案は重要である。

7.2 計画案の実施に係る提言

(1) 重点計画の実施

本調査結果として、比較的实施見通しが低い、すなわち難易度の高い計画案を重点計画として選定した。それら重点計画案の実施実現に向けて、今後出来るだけ早期にカンボディア側の意向を反映したアクションプランの策定が必要である。アクションプラン策定に際しては、カンボディア側の意向に応じた6計画案の活動内容の統合や計画案の同時並行的な実施も検討の視野におくことが望まれる。

(2) 技術協力の要点

本開発目標の米収穫後品質管理の改善においては、研修内容の整合性からして JICA 集団研修コース「収穫後処理技術集団コース」が、最適であり継続的に受け入れられるべきであるが、次ぎのような注意が要る。

カンボディア側は、技術協力について強く要求しているものの、その対応は非常に現実的であることを理解しなければならない。カウンターパートが開発調査に参加する直接的な動機は、海外研修に参加する機会を期待しているからであるが、研修員の選定は必ずしもクリアでない。カウンターパートでない者が選定されることがあると、他のカウンターパートの士気を損なうので、研修員選定の明確な基準が必要である。

JICA 専門家の派遣については、個別専門分野は短期派遣であるとしても、受け入れ体制が脆弱な状況をカバーするために、全体として長期派遣であるべきである。なお、カンボディアを一概に派遣危険地域とみることなく、地域・時期の検討、専門家行動様式を具体的に規定すべきである。

(3) 資金関係

政府機能が低下している最大の原因は、人材不足と資金不足である。政府機関は余剰人員を大量に抱えているが、再雇用問題、社会不安を抱え、余剰人員を整理できる状況にない。このことが、ひいては職場環境の無秩序を招いているが、根底には政府の資金不足がある。

プロジェクトの実施において、相手国の資金的自助努力を求めるとしても、現在のカンボディアには期待できない。計画案の実施資金は必要不可欠であるが、資金の適正使用は全てに優先して重要であるので、資金提供者との共同管理が求められる。

(4) 計画案の実現化

本年2月開催の閣僚評議会において、商業大臣は、本開発調査について全閣僚メンバーに報告した。その結果、商業大臣を責任者とする米流通システム・品質改善ワーキンググループが設立され、日本側の継続的な協力が要請されている。

具体的には、農民支援を期待できる公開米市場整備を早急に促進するため、フィージビリティスタディー（F/S）が要請されている。公開米市場は、タイ・インド・パキスタン等で現実に運営されており、カンボディアにおいても、必要な条件が整えば十分可能性があり、農民を含む流通関係者に大きなインパクトを与えるものと考えられる。米流通において、タイやベトナムの影響が益々増大する中で、時宜を失しないためにも、できるだけ早急にF/S調査が実施されることが望まれる。